



有松まちづくりの会役員会 (9月30日)

10月26日・27日の全国町並みゼミ東京大会では、町並み保存連盟50周年を記念して有松まちづくりの会・妻籠を愛する会・今井町町並み保存会の3創立団体が登壇することとなり、中濱会長が出席されると報告がありました。

10月26日の緑区区民まつりでは、パネル展示と絞り体験を行い、有松のまちをPRすることとし、担当者を決定しました。

新設トイレについて、設置場所等町内会や関係各所との検討状況の報告がありました。



(花屋Luore提供)
今月の花 カラコエ

岡家住宅の活用に向けたワークショップ開催 (9月4日) 於:モスアリマツ

名古屋市が令和3年(2021)に取得した岡家住宅を、今後日本遺産有松のガイド施設等としてどのように活用すべきかを考える勉強会が開催された。

出席者は、主催の歴史まちづくり推進課の方を含め約30名。進行役の栗並秀行氏は「まちを担っていく人材の育成も必要。今日の勉強会をきっかけに岡家住宅の活用イメージを具体化してほしい」と話されていた。



● **岡家住宅見学** ワークショップに先立ち、栗並氏の案内で実施。多くの方は建物内に入るのは初めて。その広さと共に、普段入れない主屋2階の見学に興味津々の様子。裏庭では築山や池のあった当時を思い浮かべ、また東西の蔵にも入り活用方法を話し合う参加者の姿も見られた。

● **資料説明** 見学後、モスアリマツで①有松地区の魅力と課題について②岡家住宅の活用に向けた検討課題についての提起が、まちづくり推進課よりあった。

● **ワークショップ** 3つのグループ(絞り関係者/まちづくり関係者/行政の担当者)に分かれて実施。岡家住宅の活用を考える前提として、①どのような来訪者を増やしたいか ②岡家住宅の役割・機能は何かについての話し合いが行われた。各自の意見を付箋に書き、B紙に張り付ける方法で意見整理が進められた。最後に各グループからの発表。活用方法についてのヒントとなるアイデアが多く出された。

次回は11月6日(水)、来年2月頃の全3回。

有松天満社 秋季大祭(10月6日)に向けて

◆ ”新世紀丑寅会(昭和36・37年生まれ)”奉納 臥牛 の清掃 (9月14日)

文嶺講による天満社清掃の前日、正門外の臥牛が水洗いされた。平成14年の厄年会の折、「話し合いで、銘板ではないものを」(代表 加藤大詞さん)と37人で臥牛を奉納。以来この時期に欠かさず清掃。今年は6人の仲間と実施された。



■ 社殿造営200年記念 絵馬・お守り頒布

春季大祭では"虹色夢絵馬"(5種)を広く頒布。秋季大祭では記念品第2弾として、"虹色夢天神お守り"を頒布の予定です。お守りの図柄は写真左の牛。菅原道真と牛との関係は深く、境内には臥牛の像がいくつもあります。それに先立ち作られたのが、写真右のマスコットキャラクター「がぎゅう」(仮称)。「祭当日はフオトスペース(祭礼本部向かい)で写真を撮り、お守りもどうぞ」と企画された川勝尚子さんが仰っていました。

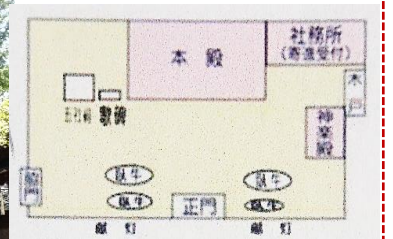


有松天満社のこと

天満社は、有松の氏神として菅原道真公を主祭神を祀る神社で、もとは祇園寺境内にあった。寛政の初め(1789～)に現在の文章嶺に遷座され、文政7年(1824)に八棟造の社殿を建立したと伝えられている。



有松天満社 社殿 ↑



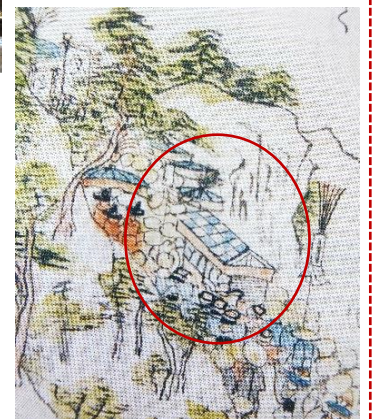
現在の社殿は、明治期に改修が加えられ、千鳥破風や軒唐破風の向拝などが付加。一層装飾的な建築になっている。

山車まつりのこと

「尾張年中行事絵抄」有松天神祭→

毎年10月第1日曜日に行われる天満社の秋祭り。もともと桶狭間村の支村で天満社が文章嶺に祀られるまでは氏神は桶狭間の神明社。祭礼の出し物の主役は当初笠鉾や馬之頭。いつから山車が曳きだされるようになったかは定かではない。江戸時代後期に何らかの車輪が付いた祭車が出されていたと推測される。

右絵は江戸後期、天満社の社殿を目指す祭の行列。中にお囃子を演奏する底抜け屋台が描かれている。やがて車輪のついた祭車が出されるようになったのだろうか。



接遇力向上研修② (9月3日) 主催:有松日本遺産推進協議会 於:有松鳴海校会館

有松にいらっしゃった方に最初に出会う機会の多い有松あないびとの会の会員を対象にした接遇力向上研修が、8月6日の第1回を踏まえて実施され、30名程が受講しました。

現役のANA客室乗務員・原田さんと牛田さんからお客様の満足度を高めるための心構えや、外国人のお客様をお迎えするにあたって

の国際マナーや各国の特徴・タブー・ボディランゲージの違いなどを学びました。また、改めて自己紹介を発表し、立ち居振る舞いや心遣いなどについてチェックしあいました。「講師の方々の立ち姿の美しさを見習い、研修で得た気づきを今後のお客様対応に活かしたい」と会長の加藤明美さんは仰っていました。



東陵中学校 **藝探展** (げいたんてん) (8月31日～9月8日) 於:川村家東蔵

「藝術文化探求部」による作品展。昨年に続いての開催。在校生の他卒業生の作品も…作品の多くは1学期に放課後の部活動で制作され、絞り作品は6月の絞りまつりでの体験コーナーのものもあるとのこと(同部顧問土屋先生)。何よりも感心したのは、各作品に制作意図や鑑賞のポイントが書かれていること。訪問した1日、居合わせた数人に自身の作品を紹介してもらったところ、胸を張っての説明。有松の伝統文化を広める活動以上に、生徒自身伝統文化への理解を深めているようであった。



紹介 有松あないびとの会による有松ガイド (9月12日)

猛暑続きで、ここしばらく有松東海道も人影はまばらでした。それでも少しずつ観光客が戻りつつあります。この日は浜松からの老人クラブの方30数名を5班に分かれての1時間半のご案内。日差しを避けての町歩き、岡家住宅・絞会館での見学時間を増やすなどの工夫で、参加者も満足顔のようでした。



クアオルト健康ウォーキング 有松で開催 (9月23日)

「がんばらない」でカラダとココロに良い効果を！血圧測定など健康チェックの後、同行の専門ガイドにドイツ流の歩き方を学びながらの散策会。参加者40名が2班に分かれ、日本遺産のまちで江戸情緒を感じながら、更に天満社や細根山「オアシスの森」にも寄る全長3.4km、2.5時間の小旅行。途中歴史小話もあり「また参加したい。楽しかった。」の声も聞かれた。



CCNet ” 緑区にある戦争の跡を辿る ” 番組紹介 (8月12日～)

戦争を振り返る夏に相応しい番組がケーブルテレビ放映された。番組要旨を紙上で紹介したい。

1945年8月まで連合軍の捕虜を收容する施設が有松にあった。その名は「名古屋俘虜收容所第2分室」(鳴海分所)。元高校教師の馬場豊さんが、その歴史を風化させないようとの活動で分かったことを説明された。



收容所のポンプ小屋であったとされています



ポンプ所跡

《 鳴海分所はどのようなところか? 》

太平洋戦争当時1943年の末、連合軍の兵士を收容する施設が設置され、最後273人が收容されていた。米・英・加など。

写真：ポンプ所跡が唯一の痕跡。馬場さんは「遺構の存在は貴重。週1・2回の休み以外は工場に働きに行っていた」と。

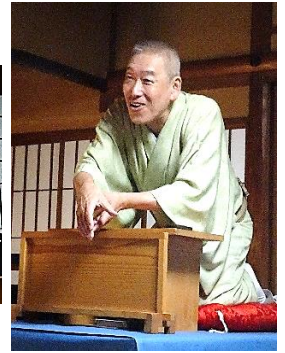
当時日本国内の労働力不足を補うため、過酷な生活を強いられていた。飢餓と栄養失調に苦しんだ。国内の捕虜の約10%が死亡。戦後帰国できた捕虜の回顧録を読むと「食糧事情がよくない中、厨房にこっそり入った人がいた。看守から制裁を受け、長時間立たされていた」との記述がある。鳴海分所の死者は22人。。当時の兵士や軍属23名はB・C級戦犯として捕虜虐待などの罪で厳しく処断された。(全国の收容所の中2番目の多さ)



最後に馬場さんは「現存する遺構は、若い人が歴史を知るリレーのバトンの役割を果たす」と仰っていた。

第16回 寿限無茶屋で上方落語 九雀亭（9月8日）

温かい雰囲気の中、参加者20数名は笑いに包まれてのひと時を過ごしました。桂九雀は有松小出身、寿限無茶屋のご主人と同級生とか。同窓生らリピーターも多く、この雰囲気。今回は楽器演奏とのコラボで、出囃子までマ



リンバ、奏者は後藤ゆり子。演目「月宮殿星都」他。マリンバ・ミニコンサートも圧巻。荒城の月など馴染みの選曲がいい。途中、抽選会や全員合唱"上を向いて歩こう"は会場を一つにしていた。

次回案内 2025年4月6日(日)15:00~ 第17回 寿限無茶屋で上方落語 九雀亭 / 独演会

連載 有松におみせを構えて⑥ 寿限無茶屋

山車会館西隣に位置する重厚な明治の建物のうどん屋さんです。セットメニューを注文すると奥座敷で石橋のある庭(右写真)を眺めながら食事ができるとか。

▶ どうして有松にお店を構えることにしたのですか？

思い起こせば子供の頃よりこの町家に生まれ、何か町家を活用した仕事ができないかと・・・たまたまご縁があり、うどん屋を始めました。気がつけば創業40年。長かったようであったという間でした。

▶ これまでのご苦労や喜びは？

甘くはないですね、続けることは結構大変でした。しかし、継続は力なりとも申します。その間有松も目まぐるしい変遷があり、今日まで続けてこられたのは家族の支え、それに何より皆様のおかげです。心から感謝申し上げます。これからもできる限り長く続けてまいります。

▶ これからのこと、こんな町になって欲しいという願いは？

有松は桶狭間古戦場の最寄りのまち、旧東海道沿いの絞りで栄えた風情のある町並みが残るまち、人の暮らしのある閑静な住宅街の中に商店・絞り工房・飲食店などがあるまち、このように言えるでしょうか。

訪れる人の言葉の一つに「静かでいいところですね」という声も多いです。また、急行も止まる名鉄名古屋本線沿いのまちでもあることにも目を向けて欲しいです。

営業時間 11:00~15:00 17:00~21:00 / 定休日 木曜日 毎水曜夜 第3水曜 ☎ 052-624-5006

築150年の古民家で手作りの味をお楽しみください。落語会の申込 は上記☎まで

寿限無茶屋



催事・行事予定

10月 6日(日) 9:00 有松天満社秋季大祭 有松天満社文嶺講

10月21日(月) 18:00 有松町並み相談会

10月26日(土) 10:00 みどりシティフェスティバル 大高緑地

10月27日(日) 7:30 かえで道清掃

10月27日(日) やっとかめ文化祭 DOORS 10:00 有松まち歩き / 13:30 「都都逸」「浮世絵」の有松絞り

10月28日(月) 有松まちづくりの役員会 有松コミセン

発行者 中濱 豊(有松まちづくりの会 会長)

編集者 加藤明美(有松まちづくりの会 広報部長)

pegasusb@mc.ccnw.ne.jp 取材・撮影 伊藤総俊

有松まちづくりの会はホームページを公開しています。

10月1日~12月15日

名鉄キャンペーン

「秋のなごやめぐり」

《編集後記》

岡家住宅の活用を考えると、有松のまちづくりの今後を考えることと同義。様々な意見をどう具体的に集約していくのか、試される時である。そう強く感じた。